

安息日はユダヤ教の曆に於て、何よりも重んずべき日なることは世界に遍く知らるるところなり。ウイキペディアによれば、それは『出エジプト記』二十章と『申命記』五章に記されたる十戒の中にて遵守すべく教へられたる日としてあり。ヘブライ語の安息日、シャバットには、イスラエルにおいて機械を操作すること及び火を扱ふ事禁止せらる。

吾はユダヤ教徒にあらず、通常は生活に關係なし。十數年前、朝日新聞社、イスラエルとパレスチナ間の紛争に於て死亡せし人たちの遺族による、無益なる殺生停止すべく話し合ふ團體のシンポジウムを開催せり。ただ、この日、金曜日にて一人嚴格なるユダヤ教徒のパネリストあり、機械を操作するを禁止せらるる事判明す。従ひて、マイクやイヤホン使ふ事ならずと言ふ。話す方は集音マイクにてシステム通し同時通譯可能なれども、イヤホン通じて聞きとる事を得ず。困り果てたる主催者、同時通譯者一名をそのパネリストの耳元にて、所謂ウイスパリング通譯せむと依頼せば、通譯者三名の内一人たりとも割くこと叶はずと強引に押し切らる。コーディネータの編集委員突然「彼女ならば可能なり」と吾の方角指し、その任務吾に降りかかる。吾は同時通譯者ならず、その時の任務は會議運営スタッフなり。過去に逐次通譯經驗あれども、四十歳になりし時に耳に支障ありと判断し、通譯の仕事には従事せざらんと決斷す。吾拒み續けれど、通譯者の一人（二〇二〇オリンピック招致の際の東京都知事通譯者）「大丈夫、昔取りし杵柄」と言ひ放つ。もはや逃るる能はずと、壇上にあがり、巨體のパネリストに隠るるが如く坐し、三時間のウイスパリング通譯こなす。シンポジウム終はりし時は疲れ果て、これ以上聲發する事能はず。

とんだ安息日のとばつちりなりき。

（平成二十八年五月二十日受附）